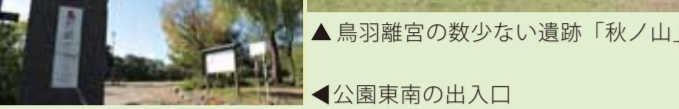


鳥羽離宮跡公園 (史跡 鳥羽殿跡)
とばりきゅうあとこうえん (しせき とばどのあと)

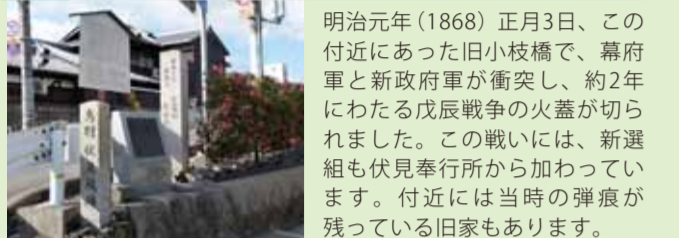


鳥羽離宮の南殿跡が、鳥羽離宮公園として整備されています。公園北辺にある土盛りは離宮の庭園に設けられた築山の遺構「秋ノ山」とされ、城南宮境内には「春ノ山」が新しく造られています。



▲鳥羽離宮の数少ない遺跡「秋ノ山」
◀公園東南の出入口
鳥羽離宮の南殿跡が、鳥羽離宮公園として整備されています。公園北辺にある土盛りは離宮の庭園に設けられた築山の遺構「秋ノ山」とされ、城南宮境内には「春ノ山」が新しく造られています。

鳥羽伏見戦跡 石碑
とばふしみせんせき せきひ

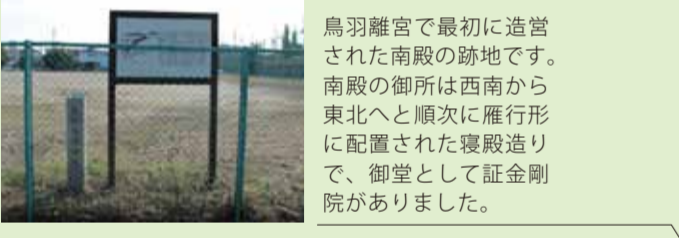


明治元年(1868)正月3日、この付近にあった旧小枝橋で、幕府軍と新政府軍が衝突し、約2年にわたる戊辰戦争の火蓋が切られました。この戦いは、新選組も伏見奉行所から加わっています。付近には当時の弾痕が残っている旧家もあります。

鳥羽伏見の戦いと小枝橋
とばふしみのたたかいとこえだばし

鳥羽伏見の戦いが始まった小枝橋は現在の小枝橋ではなく、城南宮道から鴨川に架かっていた橋のことです。新政府軍のやり方に不満のあった幕府軍と、城南宮に布陣していた新政府軍がこの橋の上で押し問答、幕府軍が強行突破しようとしたため、薩摩藩がアームストロング砲を発射し、この砲声を合図に、幕府軍15,000人と新政府軍6,000人の激しい戦いが始まったのです。これが約2年に渡る戊辰戦争の始まりです。

鳥羽殿跡 石碑
とばどのあと せきひ



鳥羽離宮で最初に造営された南殿の跡地です。南殿の御所は西南から東北へと順次に雁行形に配置された寝殿造りで、御堂として証金剛院がありました。

三光の紋 さんこうのもの

城南宮の御神紋は「三光の紋」といい、太陽と月と星を組み合わせた非常に珍しいもので、他には福井県の足羽神社にみられるだけです。この三光の紋は、神功(じんぐう)皇后の車船の旗印にちなんだもので、方除けの神徳を表しています。そのため、城南宮は、方除け、交通安全、旅行安全の神として信仰されるようになりました。

城南宮
じょうなんぐう



平安遷都の際、王城(都)の南に国の守護神として創建され、鳥羽離宮造営後は馬場殿の城南寺の鎮守社となりました。方除けの大社として信仰が厚く、平安時代から続く「城南祭」や平安の庭を舞台とした「曲水の宴」が催されます。

菊水若水
(きくすいわかみず)

伏見の名水10ヶ所の一つで、江戸時代からこの水を飲むと万病に効くとされ、そのご利益を授かるために多くの参拝者が訪れます。



鳥羽離宮 田中殿之跡 石碑
とばりきゅう たなかどのあと せきひ

28年間法皇として専権を振った鳥羽上皇が離宮内に造営した最後の御所で、皇女八条院のために建立されました。江戸時代には庵室(西行寺)が建てられ、境内には月見池、剃髮堂があります。境内には月見池、剃髮堂があります。



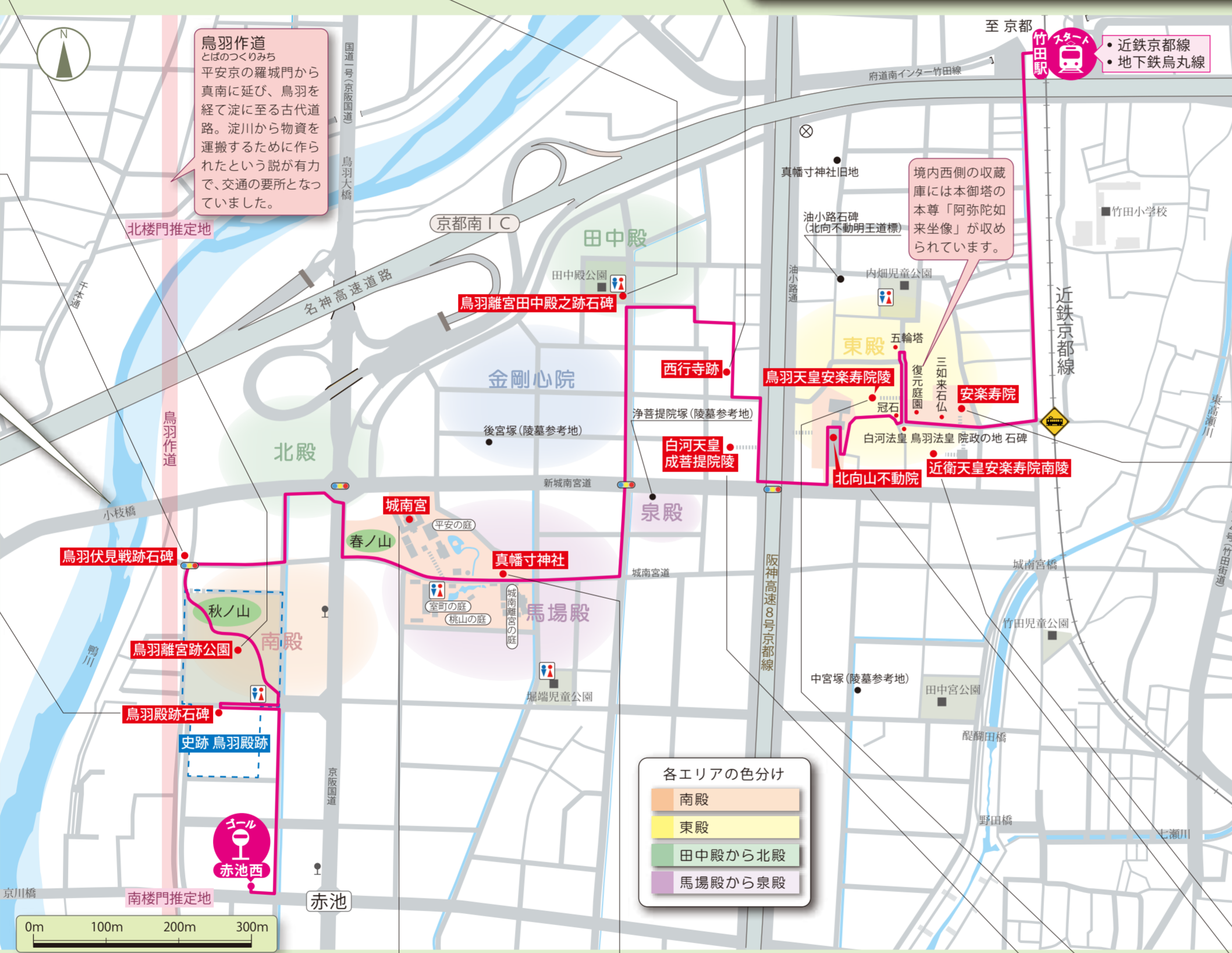
西行寺跡
さいぎょうじあと

鳥羽上皇に仕えた北面の武士、佐藤義清(西行)の邸宅跡と伝われます。江戸時代には庵室(西行寺)が建てられ、境内には月見池、剃髮堂があります。

鳥羽離宮 復元イメージ図



鳥羽離宮(鳥羽殿)は、11世紀末に藤原季綱(すえつな)が白河天皇に献上した別業をもとに造営された御所です。孫の鳥羽天皇の代にほぼ完成し、14世紀頃まで代々院御所として使用されました。約百八十町(180万平方メートル)という広大な敷地には、南殿・北殿・馬場殿・泉殿・東殿・田中殿等と呼ばれた御所と、証金剛院・勝光明院・安楽寿院・成菩提院・金剛心院等の御堂(寺院)が造営され、これらの周囲には池を中心とした大規模な庭園が造られました。



各エリアの色分け

- 南殿 (Orange)
- 東殿 (Yellow)
- 田中殿から北殿 (Green)
- 馬場殿から泉殿 (Purple)



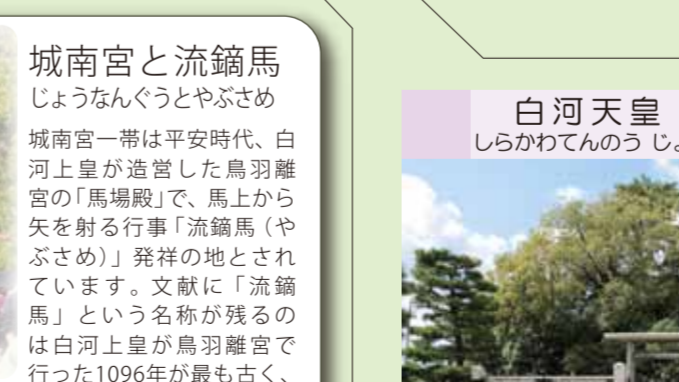
▲神苑 築水苑 (室町の庭)

平安、室町、桃山の庭、更には城南離宮のたたずまいを表現した城南離宮の庭から構成され、各時代の日本庭園を楽しむことができます。苑内には源氏物語に登場するほとんどの植物が植栽されており、100種類もの四季折々の花を鑑賞できます。



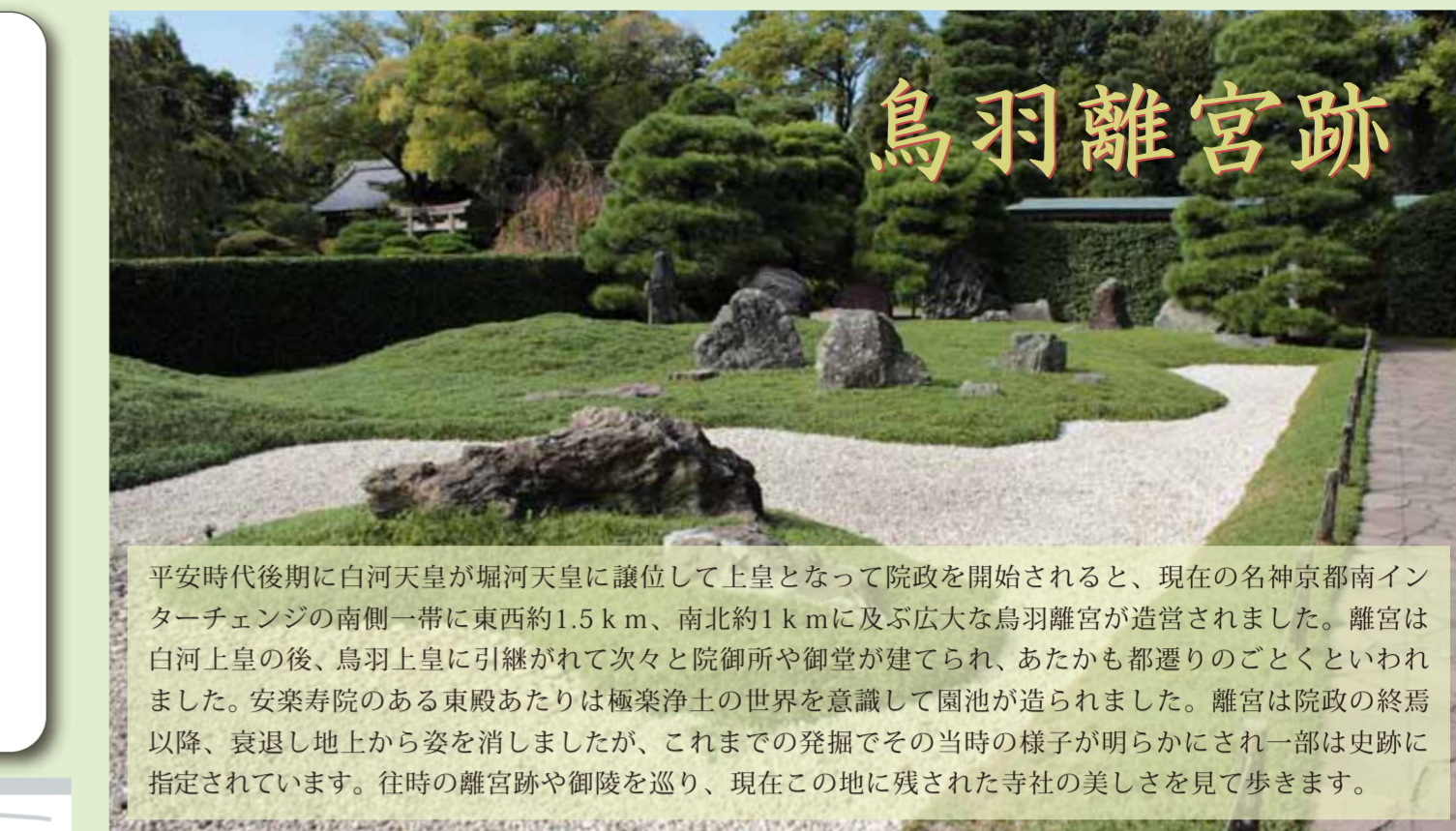
真幡寸神社
またたきじんじや

真幡寸神社(またたきのかみ)は、平安京遷都以前からこの地に勢力のあった秦氏の氏神と考えられ、現在は城南宮境内に摂社として祀られています。



城南宮と流鏝馬
じょうなんぐうとやぶさめ

城南宮一帯は平安時代、白河上皇が造営した鳥羽離宮の「馬場殿」で、馬上から矢を射る行事「流鏝馬(やぶさめ)」発祥の地とされています。文献に「流鏝馬」という名称が残るのは白河上皇が鳥羽離宮で行った1096年が最も古く、その後も100年以上続けられました。しかし、承久3年(1221)5月、鎌倉幕府を倒そうとした朝廷側(後鳥羽上皇)が、流鏝馬の馬揃えのためと偽って関西の武士に集合を掛け、結果幕府側に敗れた承久の乱以降は長く途絶えていましたが、2005年、およそ800年ぶりに流鏝馬が催され、話題となりました。



鳥羽離宮跡

平安時代後期に白河天皇が堀河天皇に譲位して上皇となって院政を開始されると、現在の名神京都南インターチェンジの南側一帯に東西約1.5 km、南北約1 kmに及ぶ広大な鳥羽離宮が造営されました。離宮は白河上皇の後、鳥羽上皇に引継がれて次々と院御所や御堂が建てられ、あかも都遷りのごとくといわれました。安楽寿院のある東殿あたりは極楽浄土の世界を意識して園池が造られました。離宮は院政の終焉以降、衰退し地上から姿を消しましたが、これまでの発掘でその当時の様子が明らかにされ一部は史跡に指定されています。往時の離宮跡や御陵を巡り、現在この地に残された寺社の美しさを見て歩きます。



安楽寿院
あんらくじゅういん

鳥羽上皇が鳥羽殿の東殿に御堂を建立したのが起源。平安後期以降衰退しましたが豊臣秀頼により復興され、鳥羽伏見の戦いでは官軍の本營となりました。鳥羽上皇の念持仏と伝えられる阿彌陀如来坐像(重要文化財)が本御堂に安置されています。



▲三如来石仏

平安時代の貴重な遺仏といわれる三尊石仏で、薬師三尊・釈迦三尊・阿彌陀三尊の三体が江戸時代に成菩提院跡から出土したと伝えられています。そのうち阿彌陀三尊像は京都国立博物館に屋外展示されています。



近衛天皇 安楽寿院南陵
このえてんのう あんらくじゅういんみなみのみさき

鳥羽天皇の皇后美福門院の墓所に用意されたものでしたが、女院が高野山に埋葬されたため、息子の近衛天皇の遺骨が知足院から改葬されました。日本で唯一多宝塔が残る天皇陵で、現存のものは1606年豊臣秀頼の寄進により再建されたものです。



鳥羽天皇 安楽寿院陵
とばてんのう あんらくじゅういんのみさき

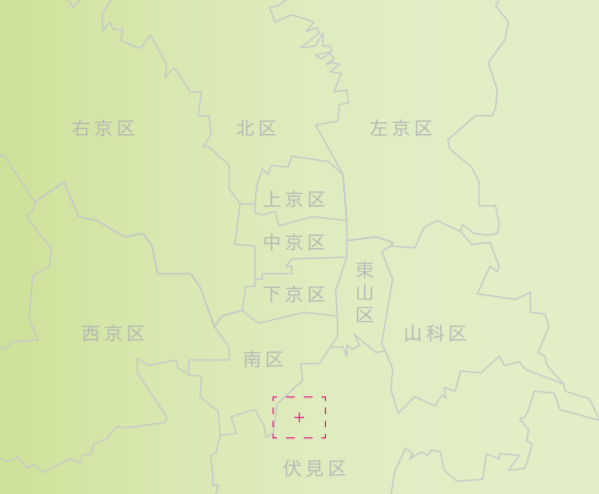
鳥羽法皇は鳥羽殿で崩御し、白河法皇に倣って自身の墓所として建立した安楽寿院本御塔(三重塔)に埋葬されました。現在の建物は、三重塔焼亡後に建立された法華堂です。

▲北向山不動院
きたむきさんぶどういん

鳥羽上皇の勅願により安楽寿院内に建立された不動堂の後身。重要文化財の不動明王が王城鎮護のため、北を向いていることから「北向不動」と呼ばれています。境内には鳥羽上皇遺愛の松があります。



鳥羽離宮跡



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・財団法人埋蔵文化財研究所

鳥羽離宮跡の発掘調査

白河天皇は応徳3（1086）年に8歳の善仁親王（堀河天皇）に譲位して院政を開始します。これと同時に鳥羽離宮の造営も開始されます。また、次の政権を掌握した鳥羽上皇も引き続き精力的に離宮の造営を進めました。離宮西端には朱雀大路から延びる鳥羽作道が南北に通る、離宮の東には鴨川(旧)が、西には桂川(旧)が流れていました。離宮は南殿・北殿・泉殿・馬場殿・東殿・田中殿等の御所、証金剛院・勝光明院・安楽寿院・成菩提院・金剛心院等の御堂が造営されました。御所や御堂には池を中心とした庭園が造られました。



安楽寿院・東殿跡

離宮の東部に位置します。鳥羽天皇陵や近衛天皇陵が存在する辺りに造営された御所が東殿です。それに隣接して安楽寿院が建立されました。安楽寿院は三重塔・間廂堂・九輪阿弥陀堂・不動堂等の御堂からなりますが、東殿と渾然一体になっていたと思われます。発掘調査では、九輪阿弥陀堂の石を敷き詰め積み上げた地業跡や池跡、近衛天皇陵の堀やそれを造るために造られた堤の基礎地業等が見つっています。

1 東殿跡



泉殿・成菩提院跡

泉殿は白河天皇陵の周辺と推定されています。成菩提院は鳥羽上皇が白河法皇の遺言により三重塔内に遺骨を埋葬し墓所としました。その南に三条西殿の西対を移築し九輪阿弥陀堂として建立した御堂からなります。発掘調査では白河天皇陵の南・北・北西の濠跡が見つっています。濠内からは三重塔に葺かれた瓦を始め仏像の一部や飾り金具等が見つっています。

2 白河天皇陵



田中殿・金剛心院跡

田中殿は離宮内で最後に造営された御所です。金剛心院は田中殿と馬場殿との間に造営された本格的な寺院で、中央に釈迦堂、その北側に寝殿、さらに西南に九輪阿弥陀堂が建立され、建物の間には園池が設けられました。発掘調査では釈迦堂の基礎下の地業、九輪阿弥陀堂の基礎下の地業、池、築地等が発見されています。築地の地業から地鎮めの垂もみつっています。



3 4 金剛心院



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



北殿・勝光明院跡

北殿は離宮西端の北部に造営された御所で平安京内の関院の殿舎を移し建てられたものです。敷地の西側には平安京の羅城門に通じる鳥羽作道が通っていたと思われます。勝光明院は阿弥陀堂と経蔵からなる寺院で、宇治の平等院阿弥陀堂(鳳凰堂)を模していとされています。発掘調査では、阿弥陀堂の基礎東南角、経蔵の門・雨落溝・築地が発見されました。また、池跡には中島が見つっています。

5 勝光明院(経蔵跡)



6



7 勝光明院(庭園)



8 勝光明院(阿弥陀堂)



鳥羽遺跡

鳥羽離宮の下層には、弥生時代～古墳時代後期の集落が確認されています。また、円墳を始め墳墓もみつかり、人形埴輪(巫女)等もみつっています。その他、飛鳥時代の竪穴住居も確認されています。



鳥羽離宮跡周辺の発掘調査地分布図

